

国パトラス、オリムピア、レフシス、アテンス等ヲ經テ埃及国アレキサンドリヤニ渡リカイロ、サッカラ、ルクソール、アスワン、フィン等ノ諸地ヲ回歴 各地ニ於ケル古代遺跡ヲ研究」〔東京美術学校旧職員履歴書〕して三月二十三日に帰国した。

⑦ コスモス会展覧会、藤田嗣治

明治四十三年四月三日から一週間、赤坂溜池三會堂でコスモス會が第二回展を開き、卒業制作と在学五年間の作品を展示した。コスモス會は小絲源太郎の回想記(43頁)にも登場したが、これは明治四十三年西洋画科卒業の田中良、田辺至、長谷川昇、岡本一平、近藤浩一路、藤田嗣治その他が作った会で、何かと目立つ行動をするこゝとで校内では有名だった。このクラスは俊才が多く、その卒業制作は「近年比類なき好成绩」〔美術新報〕第九卷第四号。明治四十三年二月一日〕と評された。山脇信徳、池部鈞、大谷浩、九里四郎らも同じクラスである。

このコスモス會に因んで藤田嗣治自ら語る所により、その学生時代を垣間見てみよう。

〔フランス留学を夢見て暁星の夜学でフランス語を習っていた藤田に対して森鷗外は助言して〕さうして森先生の説では、それは佛蘭西に行くのも宜いが何しろ日本の畫界と云ふものは非常にごた／＼が多いから、矢張り美術學校に入つて先生方と近付きなつたり、色々の繪描の人と知合ひになつた方が宜い、今後日本に五年も居るのは惜しいが、五年間は學校に入つて居れ、何にも宜い成績を得なくとも宜い、遊んで居つても構はないから學校に入

れと云ふことでありましたから、美術學校に入りましたが、森先生のお許しがあつたのを幸に學校では非常に怠けました。其時分丁度同級には岡本一平君、近藤浩一路君と色々英雄が居りました。それから長谷川〔昇〕君や何かと始終遊び廻つて中々學校の方はやりませぬで、どうも先生には始終叱られたりして成績が非常に悪かつた、三十人位居りましたが卒業の時は丁度十六番目で卒業したと思つて居ります。卒業の間に黒田〔清輝〕さんが私の卒業製作の繪を皆の前に出して悪い例として説明されました。それで私はどうも色々自分がやつて見たいことも先生の通りに従はなければならぬので中々苦しくて、一日も早く佛蘭西へ行きたいと思ひましたが、何分學校を出てから直ぐと云ふ譯にも行きませぬので、三年ばかりぶら／＼して居りまして、其間三年續いて其時分の文展に……今の帝展に出しましたが、三度とも見事に落選しました。それでも私は平氣でしたが、私の家の奴が心配して是では見込がないから、まあ佛蘭西へ行つて来い、さうしたらどうにかなるだらうから行つたら宜いだらうと云ふので行きましたが、丁度佛蘭西へ行きますと和田三造君が居りました。それから梅原〔龍三郎〕君、長谷川昇君などが皆居りまして、あちらでは其時分セザンヌとかルノアールとか、長谷川君はバンドンゲンと云ふやうな新しいことをやつて居りました。

〔巴里に於ける画家の生活〕藤田嗣治。『東京美術学校校友会月報』第二十八卷第五号。昭和四年十一月。校友会文芸部主催講演會講演録〕